

絆きずなで安全・安心を未来へつなぐ

消防の力

かけがえない命や財産を一瞬にして奪ってしまう火災や自然災害。それは、幸せな日常に突然襲いかかってきます。不測の事態に備え、緊急時には、いち早く現場に向かい、懸命に活動する消防士や消防団員。今回は、地域を守り、命を救う、消防の力について特集します。

消防本部の沿革

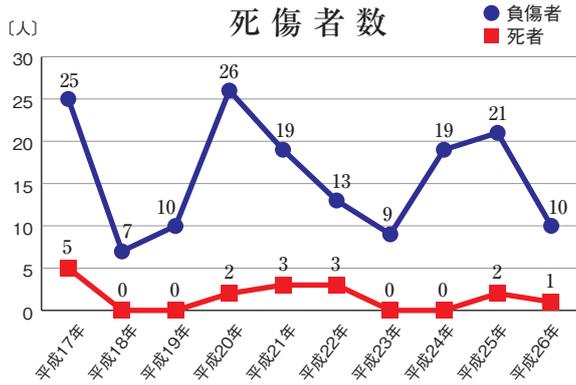
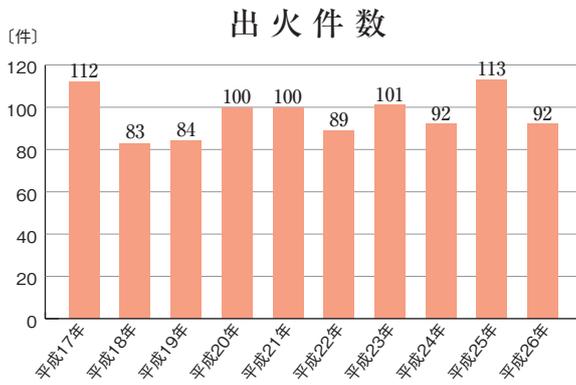
昭和41年11月1日、旧吉原市、旧富士市、旧鷹岡町の合併により、消防本部・消防署を統合。新たに「富士市消防本部」「富士市消防署」としました。富士市消防本部は吉原本町に設置し、富士市消防署は、旧吉原市消防署所在地を本署、旧富士市消防署所在地を分署として組織しました。また、消防職員定数110人（実員78人）、専任消防長制のもとに編成し、発足しました。昭和45年4月、永田町への市庁舎の建設とともに消防庁舎を建設し、消防本部・消防署を移転。平成13年3月には、消防庁舎の老朽化に伴い、同一敷地内に消防防災庁舎を建設しました。平成20年11月1日、旧富士川町との合併により、庵原地区消防組合消防本部から消防職員22人を採用。旧富士川町に西消防署富士川分署を開署し、現在に至ります。

消防の現況

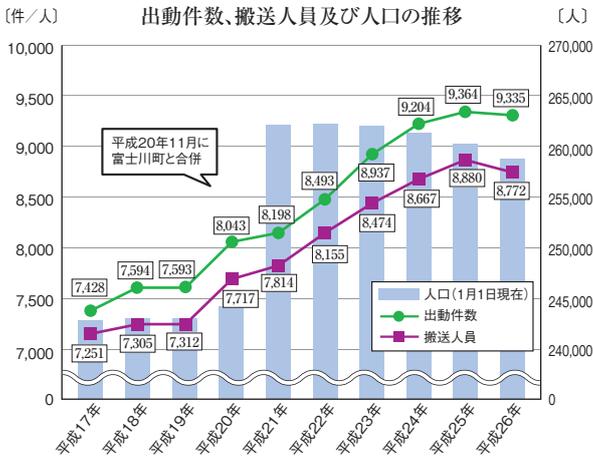
出火件数はおおむね横ばい

市内における過去10年間の出火件数は、おおむね年間100件前後で、大きな変化は見られません。平成26年の火災種別ごとの出火件数は、「建物火災」が55件、「車両火災」が9件、「その他の火災」が27件、「林野火災」が1件でした。

過去10年間の火災の動向〔平成26年 火災統計〕



過去10年間の救急の動向〔平成26年 救急統計〕



私たちの安全・安心な生活のため、常に備えているのが、消防士・消防団員です。

いつ起こるか分からない災害。私たちの安全・安心な生活のため、常に備えているのが、消防士・消防団員です。

相次ぐ自然災害でも活躍

消防士・消防団員は、火災や救急の通報があったときだけでなく、さまざまな場面で出動します。近年、暴風、豪雨、地震、津波、噴火、地滑りなど、数々の自然災害が発生しています。この9月には、茨城県常総市で鬼怒川水害が発生しました。このときも、自衛隊員や警察官とともに、現地の消防士や消防団員が活躍しました。

平成26年の事故種別による出動件数は、「急病」が5116件で最も多く、次いで「転院搬送」が1609件、「一般負傷」が1045件、「交通事故」が999件となっています。

救急出動件数は年々増加

平成26年の出火原因ごとの出火件数は、「放火、放火の疑い」が32件で最も多く、次いで「たばこ」が10件、「こんろ」が8件となっています。